

60
1964-2024

PRO
MUSICA
NIPPONIA

創立60周年
日本音楽集団
PRO MUSICA NIPPONIA

第244回定期演奏会

雅邦礼讚

客演
伶楽舎

2025年1月10日(金)

18:30開場 19:00開演

豊洲シビックセンター5Fホール

主催：特定非営利活動法人 日本音楽集団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

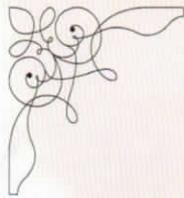
独立行政法人日本芸術文化振興会 

公益財団法人 朝日新聞文化財団

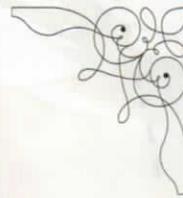
後援： 公益財団法人 日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

制作協力：一般社団法人 伶楽舎 / 東京コンサーツ

演出：久保田晶子 | 構成：原郷隆 | 舞台監督：中島隆



第244回定期演奏会 「雅邦礼賛」



本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

日本音楽集団は2024年に結成60年を迎えました。

日本の伝統音楽を守り、新たに今を生きる音楽の未来を切り拓くという精神に未だ変わりはありません。

今回は雅楽界を代表する団体のひとつである、伶楽舎（1985年発足）を客演に迎え、

「雅楽と邦楽の共演」というコンセプトに改めて挑戦致します。

現代では、いくつかの雅楽器が編成に入る邦楽アンサンブル曲は少なからずありますが、

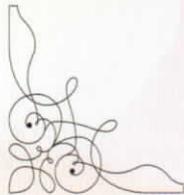
雅楽と邦楽アンサンブルが正面から組み合った曲はほとんど存在しません。

同じ国の伝統音楽でありながら、まったく違った世界観を持つ二つの音楽をどのように競演させるか。

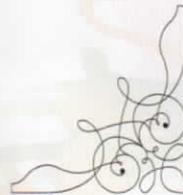
この冒険に満ちた新曲を、雅楽にも邦楽にも造詣が深い唯一無二の作曲家、

池辺晋一郎氏に委嘱致しました。

雅楽と邦楽の新たな夜明けを、是非お楽しみください！



日本音楽集団 第244回定期演奏会 実行委員会



1. 舞楽風組曲

芝 祐靖 1963年

笙 I : 中村 華子	尺八 I : 田野村 聡
笙 II : 東田 はる奈	尺八 II : 饗庭 凱山
箏 I : 中村 仁美	箏 I : 熊沢 栄利子
箏 II : 三浦 元則	箏 II : 桜井 智永
龍笛 I : 伊崎 善之	箏 III : 喜羽 美帆
龍笛 II : あかる 潤	十七絃 I : 久本 桂子
楽琵琶 : 野 護元	十七絃 II : 石井 香奈
鞆鼓 : 宮丸 直子	小鼓 : 盧 慶順
楽太鼓 : 三浦 礼美	大鼓 : 富田 慎平
鉦鼓 : 田渕 勝彦	

2. 九絃の曲

本間 貞史 1979年

細 棹 : 簗田 弘大
 中 棹 : 穂積 大志
 太 棹 : 山崎 千鶴子

もう36年ほど前になりますが、作曲当時の状況をふり返ってみますと、その頃NHKが中心となって「現代の日本音楽」の運動が活発となり、邦楽家が競って新しい感覚の作品を作曲し、若い演奏家が「現代邦楽」の演奏を目指すようになりました。残念ながら雅楽の世界には、まだ「新作」が生まれるような雰囲気はなかったものの、邦楽作曲家の書いた作品の多くに雅楽器が用いられ、その演奏の一員(龍笛)として参加の機会に恵まれたことが、作曲に挑戦するきっかけとなったようです。

そして昭和38(1963)年の春、NHK邦楽班より雅楽器・邦楽器混成の合奏曲の作曲を依頼され「水の舞」「風の舞」「火の舞」の三楽章の組曲でリズムカルな舞曲、という注文が出されました。以前より古典雅楽を演奏しながら「雅楽の中にも素敵なメロディーがあるので、これらを取り出して楽しい音楽を作りたい」と考えていましたので、各章に古典雅楽曲の旋律を用いることにしました。

*昭和38年度芸術祭奨励賞受賞作品

(1999年1月19日サントリーホール
日本伝統音楽の夕べV「和の響」プログラムより作曲家解説)

1979年文化庁芸術祭・ラジオ部門・音楽の部参加作品。長唄の細棹、地歌の中棹、義太夫の太棹という、それぞれ異なる三種の三味線を組合わせた三重奏による三声形態の音楽を試みる、という企画意図で、NHKからの委嘱により作曲されたものである。

三種類の三味線を用いたのは、それぞれの音色、音量、音域、奏法の違いが、多様な色彩感、情緒の表現を可能とし、同時に三声的な音の流れの中で各音が生きるために、その違いが非常に有効と考えたためである。

作曲の本間貞史氏は、1972年東京芸術大学の作曲科を卒業。管弦楽曲、歌曲等の作曲にあたりと共に、日本の伝統音楽を現代に活かす事に、意欲的な作曲家。

この曲は、1979年11月、NHK-FMにて放送初演。初演者は長唄の杵屋五三郎(三世)氏、山田流の中能島欣一氏、義太夫の鶴澤清治氏。

(日本音楽集団第113回定期演奏会プログラム、他より)

れん れん ふ
煉蓮譜

— 雅楽と邦楽のために

池辺 晋一郎 委嘱新作 2024年

4.

えい きょく びん た た ら
郢曲 鬢多々良

伊福部 昭 1972年

3.

- | | |
|---------------|---------------------|
| 篠笛 I : 竹井 誠 | 楽太鼓 : 山内 利一 |
| 篠笛 II : 山本 一心 | 筑前琵琶 : 藤高 りえ子 |
| 龍笛 : あかる 潤 | 薩摩琵琶 : 久保田 晶子 |
| 能管 : 芝 有維 | 箏 I : 山田 明美 喜羽 美帆 |
| 筆 築 : 三浦 元則 | 箏 II : 久東 寿子 石井 香奈 |
| 笙 : 東田 はる奈 | 箏 III : 三宅 礼子 木内 麻由 |
| 小鼓 I : 尾崎 太一 | 十七絃 I : 城ヶ崎 美保 |
| 小鼓 II : 盧 慶順 | 十七絃 II : 丸岡 映美 |
| 大鼓 : 多田 恵子 | 指揮 : 稲田 康 |

郢曲とは、平安中期にわが国に興った音楽の一形態であるが、様式としては、宮廷社寺楽と庶民の俗楽との中間に位していた。したがって、旋法なども、わが国と唐・天竺などの混淆にあったと考えられている。

鬢多々良とは、比牟多々良などとも記されるが、詠唱を伴ったかなりくつろいだ舞い楽で、あまり厳格に定った振りはなかったらしく、各自が自由に舞い、やがて乱舞に至るのが常であったとされる。

(日本音楽集団第20回定期演奏会 初演時プログラムより作曲家解説)

- | | |
|-------------|---------------|
| 笙 : 中村 華子 | 笛 : 新保 有生 |
| 筆 築 : 中村 仁美 | 尺八 I : 元永 拓 |
| 龍笛 : 伊崎 善之 | 尺八 II : 田野村 聡 |
| 楽琵琶 : 田渕 勝彦 | 三味線 : 今藤 政優 |
| 楽箏 : 野田 美香 | 琵琶 : 久保田 晶子 |
| 鞆鼓 : 宮丸 直子 | 箏 : 三宅 礼子 |
| 楽太鼓 : 三浦 礼美 | 十七絃 : 久本 桂子 |
| 鉦鼓 : 野 護元 | 打楽器 : 富田 慎平 |
| | 指揮 : 稲田 康 |

日本音楽集団は、近世の楽器編成。いっぽう伶楽舎は中世あるいはそれ以前の楽器編成だ。しかし双方がともに和することは、まず、ない。そのための作曲という稀有な機会が舞い込み、張り切ったものの、いざ五線に向かうと、悩んだ。はじめ、二つの形態の歴史的な対峙という「タテ」の視座、また世俗と雅という「ヨコ」の視座を構成の軸と考えたが、音楽的な発想につながらなかった。机上の観念だったのだろう。そこで、このアイデアをくつがえし、自然なアプローチで、それぞれの楽器の発音に素直に耳を傾けることにした。すると楽器たちは、ある時は融合し、ある時は対立した。特殊な奏法をあえて用いず、いうならば個々の楽器のイディオムに添った。僕の作業は、さざなみに揺れる蓮の花をこく当たり前に煉るだけ、そこに身を任せるだけ、その音を掬い上げるだけ、という感じだった。

日本音楽集団が創立60周年を迎える。かつて何度もおつきあいましたし、ラヴェルやサティ、フォーレなどフランス近代音楽による編曲集CDを作ったこともある。いっぽう伶楽舎は設立40年。こちらには09年に「桜樹峨峨」という曲を書いたのみならず、僕の企画コンサートなどに何度も登場願ってきた。双方のメンバー個々にも、たくさんお世話になっている。音楽集団への祝意とともに、二つのグループへの親しみを込めて、24年秋に作曲した。(作曲家)



委嘱作曲家 池辺 晋一郎

1943年水戸市生。71年東京芸大大学院修了。66年日本音楽コンクール第1位。その後音楽之友社賞、ザルツブルクTVオペラ祭優秀賞、イタリア放送協会賞3度、国際エミー賞、芸術祭優秀賞4度、尾高賞3度、毎日映画コンクール音楽賞3度、日本アカデミー賞優秀音楽賞9度、放送文化賞、JXTG音楽賞等。紫綬褒章、文化功労者、旭日中綬章。交響曲11曲、オペラ11作他。映画「影武者」「楯節考」「うなぎ」TV「滞つくし」「独眼竜政宗」「未来少年コナン」他。演劇音楽約520本。著書多数。東京音楽大学名誉教授、音楽ホール、音楽祭等の監督など。09年3月まで13年間NHKTV「N響アワー」、21年3月までNHKFM「N響ザ・レジェンド」出演。

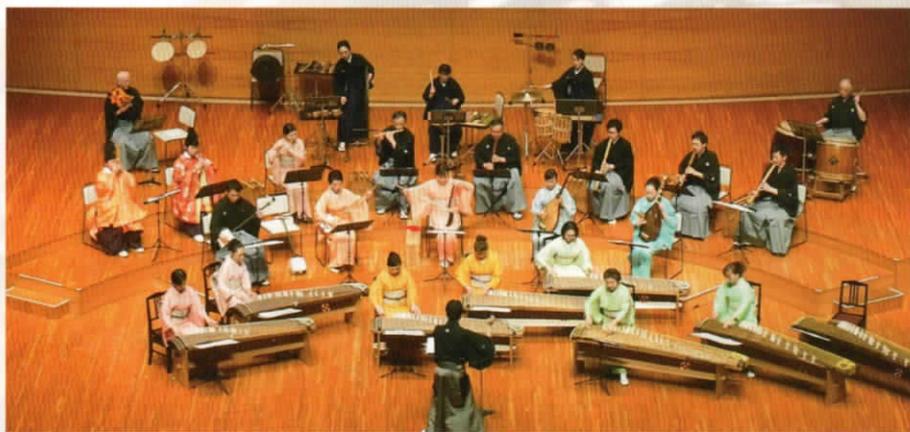


伶楽舎

1985年に発足した雅楽演奏グループ。創立者・芝祐靖(雅楽演奏家、作曲家。文化勲章受章者)。現音楽監督・宮田まゆみ。現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏に積極的に取り組み、国内外で幅広い活動を展開。国内各地の他、海外の主要ホールに招聘されて演奏。現代作曲家への委嘱を続け、古典雅楽様式の新作とともに自主公演で初演してきた。他に解説入りのコンサートや学校等でのワークショップなど雅楽の普及公演も数多く行っている。2016年佐治敬三賞、2020年ENEOS音楽賞邦楽部門等を受賞。

《本日の伶楽舎出演者》

伊崎善之、野護元、田渕勝彦、中村華子、中村仁美、野田美香、三浦礼美、宮丸直子



【日本音楽集団】

1964年創立。伝統的な日本の楽器である、箏・尺八・三味線・琵琶・笛、小鼓・太鼓などの打楽器、笙・箏などの雅楽器による和楽器オーケストラです。和楽器数十名と指揮者による大合奏は迫力満点です。現在では、定期演奏会を中心に、全国各地での公演、教育機関での音楽鑑賞会、録音・放送・映画・演劇など様々な分野で演奏活動を行っています。海外では、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、東南アジア、オーストラリア、南米等、32カ国152都市で公演を実施。アイザック・スターン、ヨー・ヨー・マヤ、ゲヴァントハウス・オーケストラ、ニューヨークフィルとの共演を実現、海外でも高い評価を得ています。文化庁芸術祭大賞、第2回音楽之友社賞、レミー・マルタン音楽賞、モービル音楽賞など、受賞履歴多数。

【賛助会員へのお誘い】

1999年10月、特定非営利活動法人として日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年会費 個人会員 10,000円 (一口以上)

法人会員 30,000円 (一口以上)

(年3回の定期演奏会への招待状を毎回ご送付)

詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせください。またホームページにおいても、申し込み方法など詳しくご案内しております。▶



●賛助会員 (口数・五十音順)

【法人会員】

日凸運送株式会社
社会福祉法人 陽だまりの会

【個人会員】

友杉 毅
*
伊藤 哲彌
伊藤 美好

伊藤 憲夫
池内 伸子
内山 小次郎
織田澤 康寿
柿崎 やよい
佐藤 玲子
新保 美恵子
西川 浩平
沼倉 哲哉
福田 暉男

堀 保之
三宅 一徳
元永 明希
元永 美代子
森 繁美
山本 福八

他2名
個人会員計21名
2025年1月現在

●日本音楽集団メンバー (楽器毎五十音順)

2025年1月現在

【笛】

あかる 潤
遠藤 悠紀※
芝 有維
新保 有生
孫 瀟夢※
竹井 誠
山本 一心☆

【笙】

東田 はる奈
三浦 はな※

【箏・三味線】

西原 祐二
三浦 元則

【尺八】

饗庭 凱山
川俣 夜山
阪口 夕山
田野村 聡
原郷 隆
測上ラファエル 志

元永 拓
米澤 浩
渡辺 淳

【三味線】

今藤 政優☆
杵家 七三
長井 麻江
二代目 三山 貢正
穂積 大志
鏡田 弘大
鏡田 司郎
守 啓伊子※
山崎 千鶴子

【琵琶】

久保田 晶子
田原 順子
藤高 りえ子

【箏】

石井 香奈
伊藤 麻衣子※
岡山 亮子※
木内 麻由☆
久東 寿子
熊沢 栄利子
桜井 智永
佐藤 里美
島崎 春美※
城ヶ崎 美保
久本 桂子
丸岡 映美
三宅 礼子
森 真理子
山田 明美
喜羽 美帆
渡辺 正子

【作曲】

相澤 洋正
秋岸 寛久
川崎 絵都夫
篠田 大介※
高橋 久美子
福嶋 頼秀

【アートマネジメント】
大西 愛子※

【楽器・舞台】
中島 隆

【代表】
尾崎 太一

【副代表】
米澤 浩

【事務局】
中山 美穂子

【打楽器】
白杵 美智代
尾崎 太一
島村 聖香※
多田 恵子
富田 慎平
山内 利一
盧 慶順

【永久名誉団員】
田村 拓男
長澤 勝俊

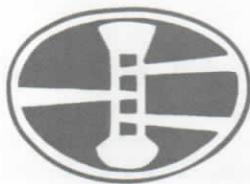
☆印は新入団員
※印は休団中

【指揮】

稲田 康
苔米地英一
箕輪 健太☆

赤字=本日の出演者

TOKYO KINKODO



株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15

TEL (03) 3792-8481

URL: <http://kinko-do.com>

FAX (03) 3792-8437

E-mail: tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人 日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1F

電話: 03-3378-4741 FAX: 03-3376-2033 <http://www.promusica.or.jp>